

今月の逸品

NO.12 2016.03



卒業式訓辞

1935 (昭和 10) 年

1935 (昭和 10) 年 3 月 23 日に举行された京都府師範学校第 72 回卒業証書授与式での学校長三國谷三四郎による訓辞。三國谷は、儀式などで講演する際に、内容を巻物に記してそれを読み上げたと言われ、この訓辞は、長さ約 9 m、字数にして 3360 字に及ぶ長大なものとなっている。この時の卒業生は、専攻科 38 名、本科第一部 149 名、本科第二部 40 名の総数 227 名で、進学する者と兵役に就く者を除いた 74 名が、4 月から京都府下の小学校教員となることになっていた。後半には、卒業生へのはなむけの言葉がつづられているが、そこには「諸子は、よろしく、国士的意気を以てその職に当り微々たる一身を以て国家の重きに伍し得る光栄に感激しながら自ら大に鞭撻奮闘すべき」との文言も見え、当時の国家と教育との関係を如実にうかがうことができる。



学校長 故 三國谷 三四郎先生

写真 : 京都府師範学校 第 72 回卒業記念寫眞帖
大正 8 年 3 月